

製造販売業者向けヒアリングの結果

- ・ 研究班から製造販売業者へ再度調査への協力を依頼したところ、以下のような状況であった。(本社が移転したことに伴い、社史などの基になった資料は既に保管されていないことが再度、確認された)
- ・ 製造販売業者 OB へのヒアリングを行い、以下の情報が得られた。
※以下は、会社の記録に基づくものではなく、ヒアリング（記憶）に基づくものであり、参考情報の扱いとする。

< 1970年代の市場状況について >

- 昭和40年代の医療機関ではディスポーザブル（使い捨て）の注射針、注射器はほとんど普及しておらず、洗浄・乾燥・滅菌の再利用が大半であった。
- 昭和50年代に入って、注射針から大病院を中心に全面ディスポーザブル化が普及した。
- 昭和45年頃 ディスポーザブルでなく再使用ができる金属製の注射針を販売していたが、その後、1～2年で販売中止になった。
- 昭和52年頃 大病院では注射針は全面ディスポーザブル化に移行していた。一方、注射筒はどの医療機関でもガラス製を洗浄・乾燥・滅菌しての再利用が主であった。
- 検査センターが採血用としてディスポーザブル注射器を開業医に昭和40年代前半から無償配布を開始した。
- 予防接種におけるディスポーザブル注射器の使用は、特に新聞報道などで肝炎の感染が問題化し、その対策として「1針・1筒」の必要性が言われ始めた1970年代中頃（昭和50年頃）以降に、官公庁を中心に普及が進んだ。

(参考) ヒアリングで把握された1970年代の価格の状況

- 予防接種用ディスポ注射器の価格は1CCの針付きで10円～20円/本（契約数量によって変動）
- 病院用では20CCの針なし注射器：60円～80円/本 10CCの針なし注射器：40円～50円/本

以上